

☆☆☆ 大阪でんきレター ☆☆☆



今月のトピック

- ◆ 社長のひとり言
- ◆ 嘘つきな脳
- ◆ スタッフ紹介



社長のひとり言

あなたならどうしますか？

あなたがドラえもんだとします。

ある日、のび太君から「虫歯になったから腕のいい歯医者さんを探して」と言われました。あなたはのび太君の言う通りになりますか？ いいえ、おそらくポケットから「虫歯の治るガム」を出すのではないのでしょうか？ この場合、のび太君は歯医者に行きたいのではなく、虫歯を治してほしいだけだったからです。

こんなことがありました。

社内で、書類の提出をお願いしました。文書書式を指定して、データでの提出をお願いしました。ところが、その指定された書式で提出はできないという人がいました。その人は別の書式で提出をしましたが、その指定された書式に疑問を呈しました。「今時そんな書式を指定するのは時代錯誤もいいところだ」と。

書類の提出を求めた人が、文書書式を指定したのは、もし20人近くの人がそれぞれ自分の都合で提出すると、とりまとめる方は編集に時間がかかり、保管にも手間がかかると考えたからからです。文書書式の指定が古いなんて、そんなことはどうでもいいのです。

最初の話と次の話は一見無関係のように感じますが、どこか共通する部分もないでしょうか？ 何も感じない方は、この話を聞いても何も感じないかもしれません。ただ、我々にはそのような人は一人もおりません。まず考える上で、自分だったらどうするか？ それを考えてから、相手のことを考え行動できるかが大事なのではないでしょうか。

年末にかり始め、皆様せわしない日々をお過ごししかと思います。そんな忙しい時ほど、私達は「心」が通じるやり取りを心掛け、皆様との1分1秒を大切にしております。



としたろう
山本 利太郎

嘘つきな脳

突然ですが、脳は嘘つきです。

「盲点」の意味はご存じですか？国語辞典では「誰も見落としている点・気づかない手落・欠点」などと説明されています。

人には「盲点」が実際に存在します。網膜の裏には、脳へとつながる視神経が集まっています。そこには視神経円板と呼ばれる部位があり、そこは視覚を認識できる細胞が一つもない。つまり、画像を処理出来ない、必然的に見えないのです。それは左右の目にひとつずつあり、ちょうど眼球の耳側にあり、それが「盲点」です。



右目を閉じて、左目だけで「□」だけを見つつ、顔をゆっくり近づけて下さい。ある一定のところで「●」が消えませんか？そこが盲点です。

けれども私たちは日常生活で、この図の「●」のように視野から突然何かが消えたりはしません。見ている、私たちがそう感じられるのは、脳が、この見えていない「盲点」の付近の情報を元に、もっともありそうなものを生み出し、視野に生じた空白を穴埋めしているからなのです。

私たちはある意味では、脳に騙されているのかもしれない。

—上野 大輔—

スタッフ紹介



いとう ひでき
伊東 英樹

生年月日：S50年6月14日

年齢：43歳

血液型：B型

趣味：歴史の雑誌を読む

将来の夢：各地の城を見る

入社23年目の伊東と申します。入社してからもう20年以上になり年数的にはベテランの域になっています。

若手社員の方もたくさんいるので、多少なりとも手助けができるようにしっかりと頑張っていこうと思います。

ここ数年、体調を崩すことが多くなっています。風邪もですが、肺炎にもなりました…。体調管理には十分に気を付けなくてはと実感しています。

なかなか運動をする機会もありません。年齢とともに体力も低下していきますので、適度な運動で体力を維持していきたいです。

大阪でんきレターは“月刊”です。あなたのアドバイス、ご意見を下記アドレスにいただくと励みになります。

大阪電機商事(株) 高岡支店

富山県高岡市問屋町5番地

TEL:0766-23-3111 FAX:0766-25-1790

furumura@osakadenki.co.jp (古村 孝志)

